参考資料１

# 地下鉄東西線
# （仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性
## （最終取りまとめ）

平成２４年１月

仙台市

# 地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性
# 最終とりまとめについて

地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺地区は、青葉山、広瀬川の豊かな自然や、仙台城跡、博物館、美術館、国際センター、東北大学など本市の魅力を代表する多くの資源が集中した、「杜の都」、そして「学都」を象徴するエリアとなっています。

また、この地区には、本市がそのあり方を検討している仙台商業高等学校跡地、（仮称）国際センター駅舎上部空間、宮城県スポーツセンター跡地及び青葉山公園（仮称）公園センターといった、この地区のさらなる魅力向上につなげるべく、今後整備を進めていく新たな取り組みもあります。

こうした状況を踏まえ、本市では、平成 22 年 12 月に立ち上げた有識者懇話会におけるご議論や、市民の皆様からのご意見などを踏まえ、このたび、「地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性」を取りまとめました。

これは、平成 27 年度の地下鉄東西線の開業を見据え、この地区が、今後の本市の発展において果たすべき役割や強化していくべき機能を明確にするとともに、これを踏まえた４つの関連事業の方向性を定めたものです。今後、これを基本として、様々な事業間相互の機能分担や連携を図り、相乗効果を生み出していくということを重視しながら各事業を推進してまいります。

仙台商業高等学校跡地、（仮称）国際センター駅舎上部空間及び宮城県スポーツセンター跡地については、地下鉄東西線の開業時期を当面の目標として具体化を進めるとともに、青葉山公園（仮称）公園センターについては、青葉山公園整備事業スケジュールの中で整備していくこととしています。

また、こうした事業の効果を最大限に引き出し、周辺地区の魅力をさらに高めていくためには、整備内容にとどまらず、そこで展開されるソフト面の取り組みなど、運営における行政や市民、大学、関係団体等の多様な主体間の連携・協働の視点が大切であり、今後、そうした運営面での課題等にも十分に留意しながら、事業を推進してまいります。

平成 24 年 1 月

仙　　台　　市

# 目　次

Ⅰ．（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性 ..... 1
Ⅱ．仙台商業高等学校跡地 ..... 4
Ⅲ．（仮称）国際センター駅舎上部 ..... 7
Ⅳ．宮城県スポーツセンター跡地 ..... 8
Ⅴ．青葉山公園（仮称）公園センター ..... 9
Ⅵ．回遊性及び交通処理等について ..... 10
Ⅶ．今後の具体化に向けた、懇話会委員からの指摘事項 ..... 11
Ⅷ．検討経過 ..... 12
Ⅸ．地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺整備に関する懇話会 委員名簿 ..... 13

# Ⅰ．（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性

## １．（仮称）国際センター駅周辺地区の位置付け

### （1） 基本計画（平成 23 年３月策定）における位置付け

・昨年３月に策定した基本計画においては、歴史、自然、学術といった多様な資源が集積するこの地区について、今後の重点的な取組みと絡め、以下のように位置づけている。

**『都市の新たな魅力を創造し発信するシンボルゾーン』**

**■学びを多彩な活力につなげる都市づくり**
・「学び」を都市の多彩な活力・魅力につなげていく「ミュージアム都市」の推進

**■人をひきつけ躍動する仙台の魅力と活力づくり**
・観光・コンベンション機能などにより広域的な交流を生み出す拠点づくり

地下鉄東西線により形成される成長軸「東西都市軸」を起動させる重点地区

### （2） 東日本大震災を踏まえて

①震災後直面している課題

・震災により、観光、コンベンションをはじめとする仙台・東北の交流人口が減少

②仙台市震災復興計画（平成 23 年 11 月策定）～国際センター駅周辺地区との関連記述～

・東北の復興を牽引する「交流・活力創出」の取組み

→交流人口の回復・拡大に向けた取組み（観光プロモーション、大規模国際会議・コンベンションの積極的誘致、より大規模な会議等の誘致にも対応できるコンベンション機能の強化）

→民間活力の積極的な活用（特区なども活用しながら民間投資を促す環境を整備）

**仙台市基本計画**

・地下鉄東西線による形成される新たな「東西都市軸」を新たな成長軸として起動させるための重点地区

・「学び」を都市の活力・魅力につなげていく「ミュージアム都市」の推進や、観光・コンベンション機能の充実などにより広域的な交流を生み出す中核的な役割を担うべきエリア

**『東西線沿線まちづくりの基本方針』**
**～（仮称）国際センター駅～**
・多様な魅力から新たな交流が生まれる、国際的な学術文化交流拠点の形成

**仙台市震災復興計画**

・本市が牽引役となって、仙台・東北の減少している観光客の回復に向け、仙台・東北が力強く復興していく姿を積極的に示し、交流人口の拡大を目指す

・コンベンションの誘致を進め、国内外に仙台・東北の復興の姿を的確に情報発信し、直接的・間接的な経済効果の波及を図る

・復興まちづくりについて、「学都仙台」の持つ資源を生かすとともに、特区などによる規制緩和や税財政上の特例措置などの支援策を講じ、民間投資を促す環境整備を進める

◎基本計画における「杜の都・仙台のシンボルゾーン」、広域的な集客・交流の拠点となるべきエリアという位置付けは、震災後においても変更なし。

◎交流人口の回復・拡大をはじめ、東北全体の復興を牽引していく仙台の新たな拠点地区として、国際センター駅周辺地区の魅力、機能を高めていく必要性はむしろ高まっている。

◎周辺整備にあたっては、民間活力を積極的に活用する事業スキームを構築する。

## ２．機能強化の方向性

### 《 エリアコンセプト 》

**新たな魅力を創造・発信する、杜の都　仙台のシンボルゾーンへ**

～観光・コンベンションをはじめとする広域的な集客・交流機能や、
市民の創造的活動の拠点エリアとして、仙台・東北の魅力を国内外へ発信～

上記のエリアコンセプトのもと、都心部や東西線沿線を始めとする市内他エリアの多様な都市機能との役割分担、相互連携による相乗効果の発揮といったことも視野に入れながら、次の三つの機能強化を図っていく。

### （１）機能強化の方向性

#### コンベンション機能

*『民間の創意を活用し、多面的な機能を有するコンベンションエリアへ』*

≪具体的機能≫
・国際センターを核とした、学会等の大規模コンベンション需要への対応能力の拡大
・国際会議などコンベンションの積極的誘致により、仙台・東北の復興を国内外に発信
・「仙台らしさ」が凝縮したこの地区の特性を活かし、“おもてなし”も含めたコンベンション受け入れ環境を整備

#### 観光交流機能

*『新たな観光交流拠点として、仙台の歴史、自然、文化など「杜の都」の魅力をアピール』*

≪具体的機能≫
・仙台城跡、博物館、青葉山公園など既存の観光資源の魅力向上や、新たな観光資源の創出
・個々の資源をつなぐ回遊ルートの形成、インフォメーション・ガイダンス機能の整備、利便施設（休憩・飲食、物販等）の充実
・ビジターだけでなく、多くの市民が日常的に集い、憩い、楽しむことの出来る環境の整備

#### ミュージアム機能

*『多様な資源を生かし、市民の創造的な活動や多様な交流を育む「ミュージアム空間」』*

≪具体的機能≫
・歴史、文化、自然、学術など多様な学びの資源を生かした、地区全体が一つのミュージアム空間となるような環境整備
・東北の歴史・文化など多様な魅力を発信
・「鑑賞する」にとどまらず、「体験」「創作」「表現」など市民の創造的な活動や交流の拠点
・東北大学が有する学術資源を有効に活用するなど、「学都」としてのブランド力、魅力の向上
・市域内外の様々な文化施設との連携による、仙台の歴史、文化等に関する総合的な情報発信やサテライト展示、交流事業等の核としての機能の発揮

（2）施設等の配置と機能強化イメージ

● 国際センター駅周辺地区について、「**新たな魅力を創造・発信する、杜の都　仙台のシンボルゾーンへ**」という基本理念のもと、既存施設・資源の活用はもとより、新たな施設の整備・利活用や、施設間のネットワーク、相互連携を図るとともに、この地区の歴史性や自然・景観と調和のとれた施設デザインに配慮しながら、地区全体として前記のような機能強化等を図っていく。

# Ⅱ．仙台商業高等学校跡地

## １．基本コンセプト

**◎賑わい・集客交流を生み出す中核施設として、都市の新たな魅力を発信**

・国際センター駅周辺地区におけるコンベンション機能の強化に貢献

・「仙台の文化・魅力の発信」、「多様な交流の促進」、「東北の中の仙台」といった視点も織り交ぜながら、魅力あるコンテンツを発信することにより、地区全体の賑わいを創出

・東北大学との協働・連携のもと、「学都」としての魅力も発信（東北大学用地との一体利用）

**◎民間活力を積極的に活用した整備・運営**

・震災復興に係る膨大な財政需要により、今後、本市の財政制約が高まることを踏まえ、民間活力による暫定的な土地の利活用を図る

・各種の規制緩和など、民間投資を促進するための環境整備を図りながら、民間主体の整備・運営、民間の創意工夫による集客・交流機能の確保を実現

・公共的機能を確保しつつ、民間活力を活用した整備・運営による事業スキームを検討

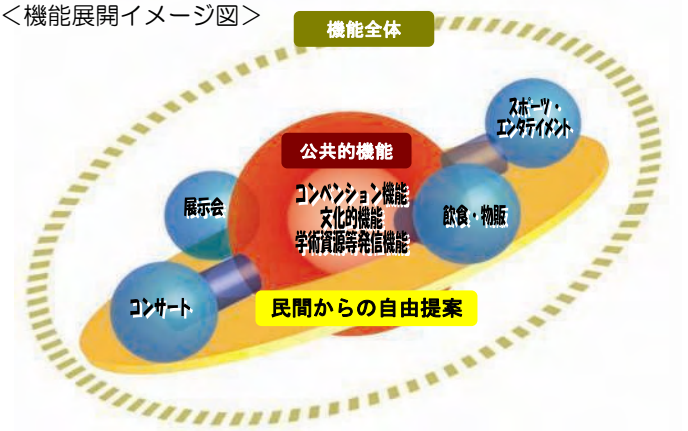
## ２．機能展開の方向性

公共的な機能（コンベンション機能、文化的機能、学術資源等発信機能）を確保しつつ、民間からの自由提案による機能展開を図るなど、民間活力を活用した整備・運営による事業スキームを構築する。

●国際センター駅周辺地区におけるコンベンション機能の強化に貢献するとともに、文化を通じた賑わいの創出や広域的な集客・交流の促進、学術資源等発信機能を確保する。

●民間からの自由提案については、地区全体の魅力向上、賑わい・集客促進につながる機能を想定。

＜機能展開イメージ図＞




### （1）公共的機能

#### ① コンベンション機能

**国際センターのコンベンション機能を、展示・会議・レセプションなどの面から補完**

・今後のコンベンション戦略の展開として、国内外から積極的にコンベンションの誘致を進め、仙台・東北の震災からの復興の姿を力強くアピールしていくことにより、交流人口の回復・拡大を図る。

・国内外のコンベンションマーケットや、その中での仙台のポジション、今後ねらうべき誘致対象等について明確にしつつ、戦略的に機能強化を進めていく。

### 1) コンベンションマーケットの現状と仙台のポジション

○ 本市のコンベンション機能（会議機能、展示機能、宿泊機能）については、他都市と比べ、特に展示機能について不足しており、近年拡大傾向にある「展示会」や「商談会」など、複合化したコンベンション形態に十分応えられていないといった状況がある。

### 2) 誘致ターゲット

○ 「学都」の資源集積を活かした学会系の国際・国内会議の誘致
○ 震災を受けての「災害・防災」、「環境・エネルギー」などをテーマとした学会等の積極的誘致
○ 市内外の観光資源等とも連携した取組み（企業研修やインセンティブツアー等の積極的誘致等）

### 3) 仙台商業高等学校跡地におけるコンベンション機能確保の方向性

（ⅰ）基本的方向性

・ 現在国際センターで受け入れ可能なコンベンション（参加者数約 2,000～3,000 人）に加え、新規施設の整備等により、より規模の大きなコンベンション（参加者数概ね 5,000 人以上）の受け入れが可能な環境整備を図る。
・ 国際センター駅周辺地区におけるコンベンション機能強化にあたっては、国際センターを中核施設としつつ、仙台商業高校跡地施設、東北大学・萩ホールなど周辺施設も含めたネットワークにより対応していく視点が必要である。

（ⅱ）施設規模等のイメージ

・ 各種の展示（学会等における機器展示やポスターセッションなど）やレセプション会場としての機能の実現を可能とする施設として、概ね 3,000～5,000 ㎡程度の融通性の高い空間が必要。このほか、一定規模以上の会議施設を複数確保することが必要。

## ② 文化的機能

**仙台・東北の魅力をアピール –仙台・東北の文化、地域資源の紹介・発信–**

・ 市内外の多様な文化施設との連携による取組み
・ 七夕や、定禅寺通ジャズフェスティバル、雀踊りなど、仙台の四季折々の祭り、イベントの魅力の発信（祭り等を“疑似体験”できる仕掛けづくりなど）
・ 宮城県内、東北各県との連携により、東北各地の文化、観光資源、祭り、食など、東北の魅力をアピール（東北「食」の市の開催など）

**市民の文化活動のサポート・文化交流促進 –市民主体の創造活動・交流の拠点–**

・ 市民の主体的な文化・創造活動の展開やイベント等の開催
・ 「学都」の知的資源も活かした生涯学習の展開（学都仙台コンソーシアムとの連携等）

## ③ 学術資源等発信機能

**学術資源や研究成果の発信**

・東北大学が保有する貴重な学術資源や研究成果を、常設・企画展示など様々な形で、来訪者に発信

## (2) 民間からの自由提案による機能の例示

- 民間主体の開発、民間の創意工夫により、当該地区の魅力向上、集客の促進につながる機能を確保する事業スキームを構築する。
- 民間からの自由提案による機能展開が、公共的機能のみとした場合の施設稼働率や採算面の課題への対応としても有効である。

○民間からの自由提案の例としては、以下のようなものが想定される。

**展示会**
学会、就職セミナー、物品展示会等の様々な形態による展示会を実現

**スポーツ・エンタテイメント**
バレーボール、相撲、サーカス等の様々な形態によるイベントとして活用

**コンサート**
ポピュラー、ロック、クラシック等の様々なコンサートとして活用

**飲食・物販機能**
自然豊かな景色を眺めながら飲食を楽しんだり、仙台の物産や東北地方の物産販売を展開

## 3. 整備・運営手法の基本的な考え方

●この地区に求められる「公共的機能の確保」と、「民間主体による整備・運営」の両立を図るため、事業者を公募等により選定する際には、周辺地区の自然・景観に配慮しつつ、民間からの自由提案を最大限に生かせるよう、現行の土地利用に係る様々な諸条件について、都市計画上の対応等を検討していく。

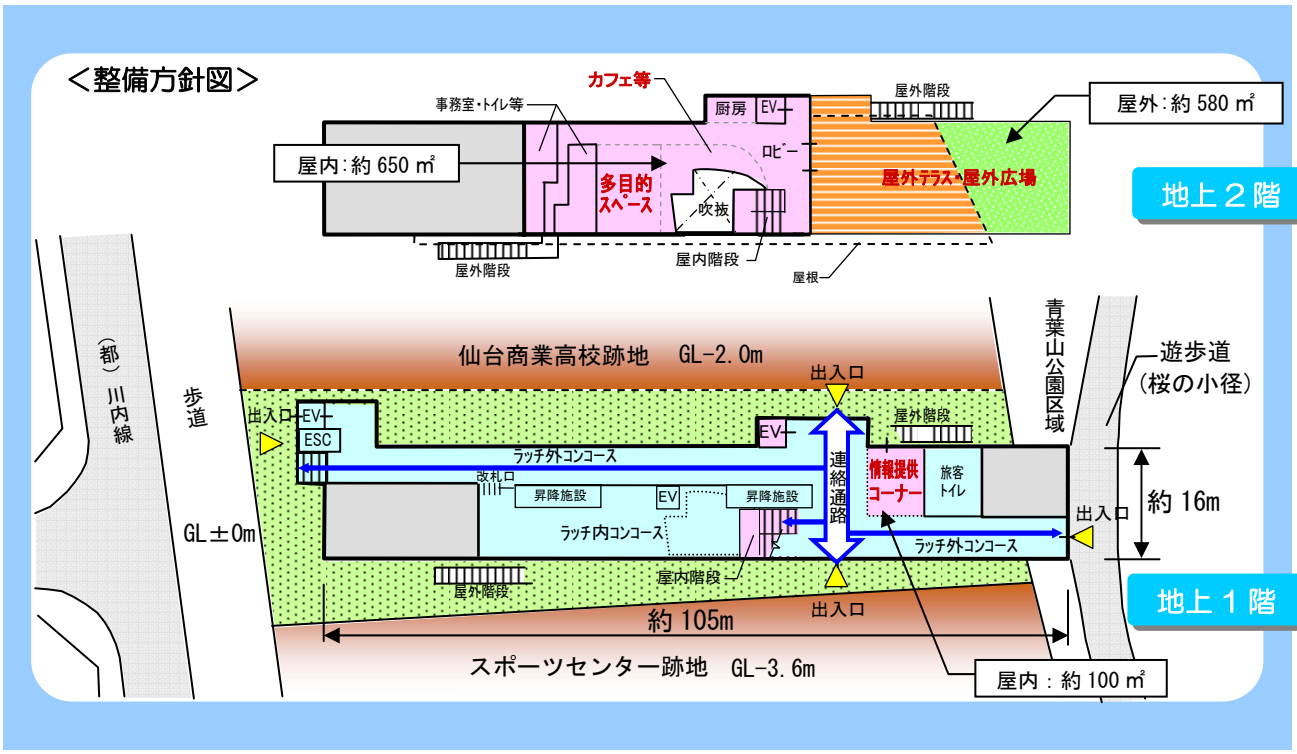
# Ⅲ．（仮称）国際センター駅舎上部

## １．基本コンセプト

◎（仮称）国際センター駅周辺地区の歴史・自然・学術・文化資源など、多様な魅力を相互に結びつけ、地区全体の観光・交流を促進する施設として整備

・駅周辺施設・資源に向かう「きっかけ」や拠点となる場の提供

・仙台商業高校跡地施設と国際センターをつなぎ、一体的な利用を可能とする場の提供




## ２．機能展開の方向性

（1） 駅に降り立つ市民やコンベンション参加者、観光客等へ、周辺施設・資源の情報提供を行うとともに、周辺施設等と連携した取組みを行う機能

・周辺施設の案内やイベント情報等の紹介

・美術館や博物館等で行われる企画展示に併せて、一部をプレイベントとして公開展示

・仙台商業高校跡地施設のコンベンションや集客イベント時の一体的空間（例：ラウンジとして利用など）としての活用

（2） 地区を訪れた人の休憩や待ち合わせ場所として利用が可能となる機能

・周辺施設を訪れる人の回遊拠点となる休憩や待ち合せ場所として利用

# Ⅳ．宮城県スポーツセンター跡地

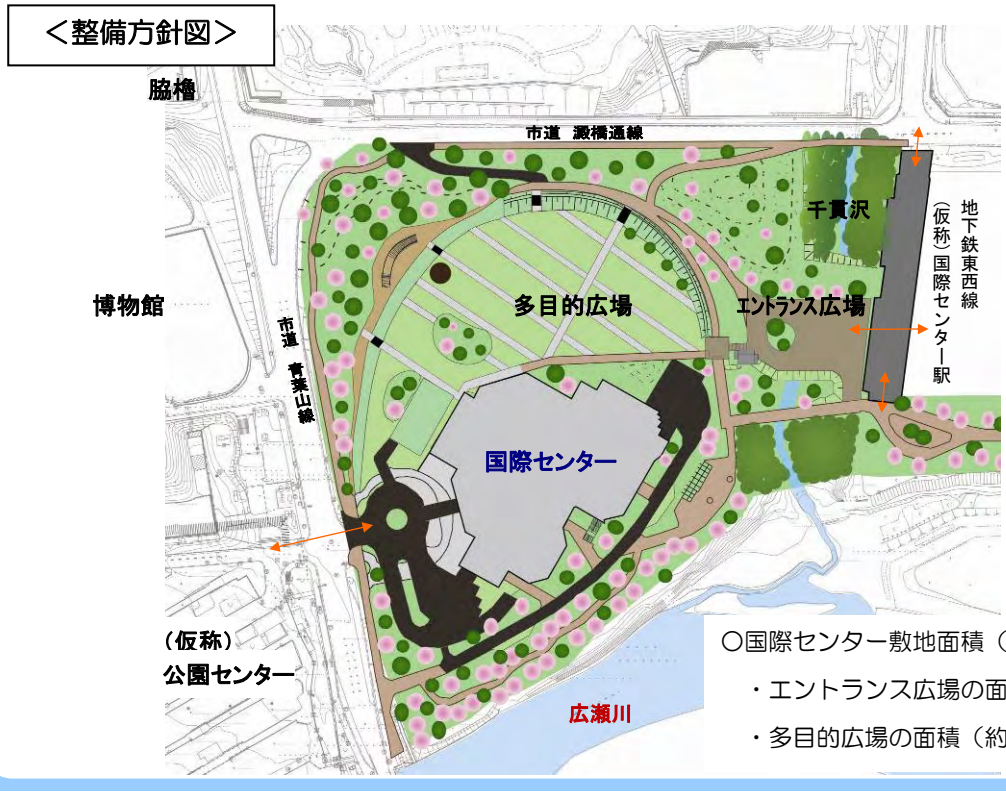
## １．基本コンセプト

◎(仮称)国際センター駅からの玄関口として良好な景観を確保するとともに、市内外からの来訪者の交流の場として機能する空間

・国際センター駅周辺地区のエントランスにふさわしい公園として整備

・駅から青葉山公園方面に向かう円滑な歩行者動線を確保

＜整備方針図＞




○国際センター敷地面積（約 5.3ha）

・エントランス広場の面積（約 0.3ha）

・多目的広場の面積（約 1.0ha）

## ２．機能展開の方向性

### （1） 来訪者へ広やかな空間、良好な景観の提供

・市民や来訪者が憩い、集う、交流の場としての整備

・青葉山、仙台城本丸跡方面の眺望を確保するとともに、広瀬川、桜の小径等の良好な自然や景観を活かした整備

### （2） 駅を起点とした周辺施設等への円滑な動線の確保

・国際センターや、青葉山公園などの周辺施設等への円滑な動線と回遊性を確保

### （3） 広場部分を活用した各種イベント・屋外レセプション等の開催、市民の文化・創造活動の場の提供

・既設広場と一体的に整備することにより、市民参加イベントのスペースとしての活用や、大規模コンベンション開催時における機能補完等が可能となる多目的な広場を整備

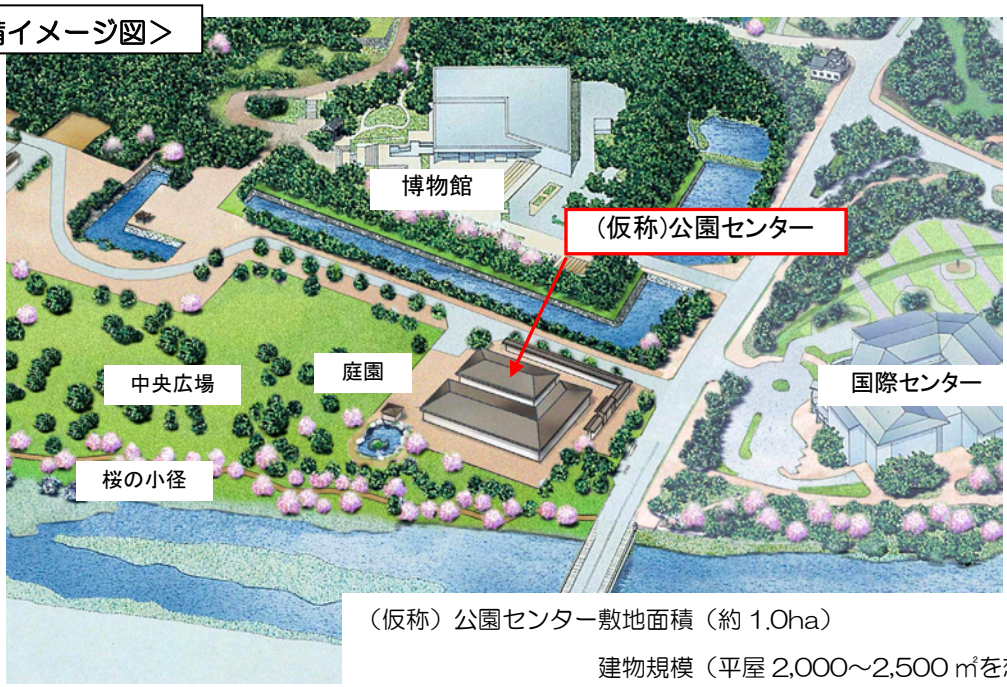
# Ⅴ．青葉山公園（仮称）公園センター

## １．基本コンセプト

◎青葉山公園、仙台城跡方面への玄関口にふさわしい、来訪者に向けた「杜の都・仙台の歴史・文化の発信」

・ビジターセンターとしての機能をベースとしつつ、青葉山公園の玄関口という立地特性や、藩政時代からの歴史性も踏まえた、仙台の歴史、文化の発信

＜整備イメージ図＞




（仮称）公園センター敷地面積（約 1.0ha）

建物規模（平屋 2,000～2,500 ㎡を想定）

中央広場の面積（約 6.0ha）

## ２．機能展開の方向性

### （1） ビジターセンターとしての機能

・周辺施設との連携を図りながら、ビジターセンターとしての来訪者への各種利便を提供
→ 飲食・休憩、周辺案内、名産品販売等

### （2） 「歴史紹介、観光」を核とした機能展開

・青葉山公園の玄関口としての特性を活かし、歴史、文化資産や、周辺の豊かな自然環境を活かした機能を核として設定

・特に、立地場所の歴史的背景や、博物館、仙台城本丸跡方面への動線の入口に位置するという特性を踏まえ、「藩政時代からの仙台の歴史・文化の分かりやすい形での紹介、情報発信」を博物館等と連携を図りながら、観光客やコンベンション参加者など来訪者に対し効果的に行っていくことを軸とした機能を検討

## Ⅵ. 回遊性及び交通処理等について

① エリア内を巡回する交通手段の検討

- エリア内の様々な観光資源・施設等を巡回する交通手段の確保に向け、新たな取組みや（仮称）国際センター駅周辺でのバス乗降場の確保などについて、検討していきます。

③ （仮称）国際センター駅からの円滑な歩行者動線の確保

- （仮称）国際センター駅から国際センター方面、青葉山公園、博物館方面へ向かう動線について、快適な歩行環境となるような整備を図ります。
- コンベンション参加者が、円滑に施設間（国際センター、仙台商業高校跡地施設、川内萩ホール）を移動できる利便性の向上を検討します。
- 特に、（仮称）国際センター駅と国際センターの最短動線については、景観に配慮しながら、快適に移動が可能となる整備（屋根付きの動線等）を進めていきます。

④ （仮称）国際センター駅近辺での交通結節機能の検討

- （仮称）国際センター駅を基点とした周辺施設や資源への交通結節機能を検討します。

※また、地域住民や学生等、国際センター駅利用者の自転車駐輪場について、駅に近接した場所への配置を検討します。

⑤ 快適な歩行者環境の整備（散策ルート等）

- エリア内の様々な資源・施設をつなぐ動線について、案内板など快適な歩行者環境の整備を図ります。
- 特に、「桜の小径」など広瀬川沿いの散策ルートについては、四季折々の自然・景観を満喫できるような環境整備を進め、シンボルロードとしての魅力向上を図ります。
- この地区が持つ歴史性や自然景観を最大限に活かしながら、歩く人が、歴史性等に触れ、学ぶことが出来る、「おすすめルート」の形成を図ります。

② 車両交通増への対応（大型観光バス、タクシー、一般車両）

- コンベンションや、観光交流、ミュージアムの機能強化、エリア内での様々な集客イベントの展開などにより、地下鉄東西線利用者のみならず、車両交通増も想定されるため、仙台商業高校跡地施設や青葉山公園等の施設利用者のための駐車場の確保のほか、周辺市有地の有効活用なども含め、エリア全体として交流人口拡大に向けた効果的な受け入れ態勢強化を図ります。

## Ⅶ．今後の具体化に向けた、懇話会委員からの指摘事項

● 今回の懇話会では、委員の皆様から、（仮称）国際センター駅周辺地区に関し、歴史や文化、自然といったこの地区の特性に加え、新たな魅力を創造・発信するエリアとしての形成を図っていくことが重要であるとのご指摘をいただいたことから、今後、以下の点を十分踏まえながら、事業の具体化を進めていくものとする。

### （1）総合的な“エリア・マネジメント”の視点

◎ 国際センター駅周辺地区全体の機能、魅力の向上をどう図っていくか、エリア全体の中での個々の事業・施設の位置付けを明確にするとともに、都心部や東西線沿線の多様な都市機能など、様々な事業・施設間の機能分担、相乗効果を生み出していく視点が重要である。

◎ その中で、民間活力を最大限に生かした整備･運営手法なども積極的に取り入れることにより、民間の創意工夫により、この地区の魅力を高め、交流人口の増大など地域経済の活性化へつなげていく視点も重要である。

### （2）「市民に喜ばれる」という視点

◎ 観光やコンベンションなど、交流人口の拡大が大きな課題であるが、来訪者が魅力を感じ、また訪れてみたいと思う前提として、市民がこのエリアで日常的に楽しみ、かつ誇りに思えるようなエリアに育てていく視点が重要である。

### （3）市民協働、多様な主体間の協働・連携

◎ 「杜の都」のシンボルとも言えるこのエリアの魅力を高めていくためには、ハード面の整備のみならず、そこで展開される様々なコンテンツの充実と効果的な発信、ソフト面、運営面での取り組みが極めて重要である。

◎ そのためには、市民、経済界、大学、ＮＰＯなど多様な主体が参画し、相互の連携を図ることが不可欠であり、新たな施設の整備や運営などの面においては、市民や関係団体の創意を生かしていく視点も求められる。

### （4）市の推進体制

◎ 今後、周辺整備を進めていくにあたっては、市役所全体で周辺地区全体に関する情報共有や緊密な連携を図り、組織横断的な取り組みとして推進していく必要がある。

# Ⅷ.　検討経過

●（仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性を考えるにあたっては、様々な分野の有識者で構成する懇話会を立ち上げ、そこでの議論も踏まえながら検討を深めてきた。

平成 22 年 12 月 22 日　第１回地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺整備に関する懇話会
- 懇話会の運営等について
- （仮称）国際センター駅周辺地区の概況

平成 23 年　１月 18 日　第２回懇話会
- 現地視察
- （仮称）国際センター駅周辺整備に関する基本的考え方
- 東北大学「せんだいｽｸｰﾙ･ｵﾌﾞ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ」からのプレゼンテーション（当地区におけるコンベンション機能強化について①）

２月 14 日　第３回懇話会
- （仮称）国際センター駅周辺地区における機能強化の考え方
- 東北大学「せんだいｽｸｰﾙ･ｵﾌﾞ･ﾃﾞｻﾞｲﾝ」からのプレゼンテーション（当地区におけるコンベンション機能強化について②）

９月 14 日　第４回懇話会
- これまでの議論の振り返りと今後の方向性

10 月 28 日　第５回懇話会
- （仮称）国際センター駅周辺整備の基本的方向性
- ４つの箇所の整備の方向性（仙台商業高等学校跡地、（仮称）国際センター駅舎上部、宮城県スポーツセンター跡地、青葉山公園（仮称）公園センター）

11 月 22 日　第６回懇話会
- 中間とりまとめ案について

１２月５日～２５日　パブリックコメントの実施

平成 24 年　１月 23 日　第７回懇話会
- 最終取りまとめ案について

## Ⅸ.　地下鉄東西線（仮称）国際センター駅周辺整備に関する懇話会　委員名簿

| 所属・役職 | 氏　名 |
|---|---|
| 株式会社インターサポート 代表取締役 | 浦沢（うらさわ）　みよこ |
| 財団法人東北活性化研究センター 調査研究部部長兼主席研究員 | 大泉（おおいずみ）　太由子（たゆこ） |
| 東北大学大学院経済学研究科長 | 大滝（おおたき）　精一（せいいち） |
| 日本コンベンションサービス株式会社東北支社 支社長 | 吉良山（きらやま）　寛（ひろし） |
| 特定非営利活動法人都市デザインワークス 代表理事 | 榊原（さかきばら）　進（すすむ） |
| 宮城教育大学美術理論研究室 教授 | 新田（にった）　秀樹（ひでき） |
| 今野印刷株式会社 代表取締役社長 | 橋浦（はしうら）　隆一（りゅういち）　○ |
| 仙台商工会議所 専務理事 | 間庭（まにわ）　洋（ひろし） |
| 宮城大学事業構想学部事業計画学科 教授 | 宮原（みやはら）　育子（いくこ）　◎ |
| 宮城大学食産業学部 教授 | 森山（もりやま）　雅幸（まさゆき） |
| 東北学院大学教養学部地域構想学科 教授 | 柳井（やない）　雅也（まさや） |
| 株式会社横山芳夫建築設計監理事務所 代表取締役 | 横山（よこやま）　英子（えいこ） |

※ 50 音順・敬称略

※ ◎：座長、○：座長代理